

## 1. 「知識・技能」の評価

### (1) 「知識・技能」の評価規準

学習指導要領本文を参考に設定した単元目標から、単元の評価基準に盛り込むべき事項を整理し、それを具体化して作成する必要がある。評価基準の語尾は「～している（知識）」、「～できる（技能）」とする。

その際、知識と技能を分けて評価基準を設定するが、実際の評価の際には知識と技能を分けて評価するのではなく、包括的に評価する。

### (2) 評価の視点

今回の学習指導要領における知識とは「運動の行い方」を指していることから、単純に技の名前などの事実に知識のみをとうものではなく、「運動の課題」「行いかたのきまり」「場や用具の使い方」「場の安全確保」等の習得状況について評価する。

### (3) 評価の実際・工夫

① 知識と技能を包括的に評価することから、ペーパーテストによる評価はそぐわない。

② 実際に知識や技能を用いる場面を設ける。

ア（体育科の特質として）運動をさせてみたり、運動のコツ等を体や言葉で表現させたりする場面を設定する。

③ 低学年においては「できる」けど表現することが苦手な児童もいることから、言葉や文章など明確な形で表出する部分のみでの知識の見取りにならないように留意する必要がある。

④ 中・高学年においては学習カード等を活用して知識を見取ることもできるが、必ずしも自分の持っている知識を言ったり、書いたりしなければいけないということではない。動きが身につけていけば、ある程度知識も身につけていると捉えることができる。（技能が A の場合、知識が C ということはあり得ない）

## 2. 「思考・判断・表現」の評価

### (1) 「思考・判断・表現」の評価規準

学習指導要領本文を参考に設定した単元目標から、単元の評価基準に盛り込むべき事項を整理し、それを具体化して作成する必要がある。語尾を「～している（思考・判断・表現）」とする。その際、思考・判断と表現を分けて評価基準を分けて設定する。

### (2) 評価の視点

「運動の行い方」に関する知識・技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力・判断力・表現力等を身に付けているかどうかを評価する。「態度」（愛好的態度、公正・協力、責任・参画、共生、健康・安全）に関する思考・判断・表現は「態度」の評価で引き取る。

小学校段階での思考・判断には指導内容に「選ぶ」があることに注意するとともに、表現とは「考えたことを友達につたえること」だが、様々な方法（言葉や動作など）があることにも注意する。言葉や動作には、声かけや歓声、表情、身ぶり、拍手なども含まれる。

### (3) 評価の実際・工夫

① ぶり返りの発表、グループでの話し合い、活動中の様子、ゲーム中の声かけ等、様々な場面で見取る。そのため、意図的に表現する場面を設定することが必要となる。

② 学習カードを工夫（評価規準応じた内容の記述）しながら活用する。

③ 2 学年の指導内容を見通して指導内容を厳選し、評価する内容を絞ることも考えられる。

## 3. 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

### (1) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準

学習指導要領本文を参考に設定した単元目標から、単元の評価基準に盛り込むべき事項を整理し、それを具体化して作成する必要がある。語尾は、「～している（健康・安全）」とし、健康・安全以外は「～しようとしている」とする。

主体的に学習に取り組む態度については、学習指導要領の内容（3）の全てが該当することに注意する。

(2) 評価の視点

各教科共通で示されている粘り強さ学習調整力も含まれていると捉えて良いが、特段そのことについて取り出す必要はなく、学習指導要領の内容(3)に示された内容を指導し評価を行う。

中高学年からは、現行学習指導要領からある「公正、協力、責任、参画、安全等に関する態度」に加えて、共生の視点が入っていることに留意する。

(3) 評価の実際・工夫

- ①学習カード等における記述
- ②授業中の発言
- ③教師による行動観察
- ④児童生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の1つとして用いる。

4. 単元の評価規準作成【例示：第1学年「器械・器具を使つての運動遊び」(マットを使った運動遊び)】

○単元目標(単元目標は、学習指導要領本文を参考に設定。語尾は、「～することができるようにする」)

- (1) マットを使った運動遊びの行い方を知るとともに、いろいろな方向に転がったり、手で支えての体の保持や回転をしたりして遊ぶことができるようにする。
- (2) マットを使った簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。
- (3) マットを使った運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。

※ゴシック体は、学習指導要領本文からの引用

○単元の評価規準に盛り込むべき事項(マットを使った運動遊びに関する部分を抜粋)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
マットを使った運動遊びの行い方について知っているとともに、いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転の動きを身に付けている。	器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫しているとともに、考えたことを友達に伝えている。	器械・器具を使つての運動遊びの楽しさに触れることができるよう、運動遊びに進んで取り組もうとしていたり、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしようとしていたり、場や器械・器具の安全に気を付けている。

○本文をもとに上記のように作成し、さらに具体化

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ マットを使った運動遊びの行い方を知っている。</li> <li>・ マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がったり、手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせたりするなどして遊ぶことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ マットを使った簡単な遊び方を選んでいる。</li> <li>・ 友達のよい動きを見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ マットを使った運動遊びに進んで取り組もうとしている。</li> <li>・ 順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動しようとしている。</li> <li>・ 場の安全に気を付けている。</li> </ul>

ゴシック体は、上記から引用

○単元の評価基準(※これまで「学習活動に則した評価規準」として作成していたもの)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>① マットを使った運動遊びの行い方について言ったり、実際に動いてみたりしている</li> <li>② マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がって遊ぶことができる。</li> <li>③ 手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせたりして遊ぶことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 坂道やジグザグなどの複数のコースでいろいろな方向に転がることのできるような場を選んでいる。</li> <li>② 腕で支えながら移動したり、逆さまになったりする動きを選んでいる。</li> <li>③ 友達のよい動きを見付けたり、自分で考えたりしたことを友達に伝えたり書き出したりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 動物の真似をして腕で支えながら移動したり、転がったりするなどの運動遊びに進んで取り組もうとしている。</li> <li>② 順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動遊びをしようとしている。</li> <li>③ 場の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。</li> <li>④ 場の安全に気を付けている。</li> </ul>

※各観点とも複数個に細分した評価規準を想定するが、順序性を示すものではないことに留意する。